

Human ヒューマン

2025.6 Vol.23

人間であるための
訓練を、
人間にしかできない
学問で



CONTENTS

02 新科目

人文学概論Ⅱ

(リテラシーとメディア)が開講

04 人文学会第11回大会開催報告

06 2024年度 優秀卒業研究賞

07 2024年度 卒業研究題目一覧(一部)

08 英米文化特別演習報告

10 文化遺産特別演習報告

12 ゼミ紹介

日本文化学科 南 明世 3年ゼミ(1部)
英米文化学科 仲松 優子 3年ゼミ(1部)

13 就活応援 卒業生からの体験談

14 人文学部 TOPICS

2024済州国際青年フォーラムへの学生参加/
人文学会第11回大会開催/
言語学フェス2025での学生発表/
テレント・アイトル教授 退職記念最終講義/
文化遺産特別演習報告書第4号刊行/
『年報新人文』第21号、『人文論集』第78号刊行

16 就職・進学情報/ 留学状況/資格取得状況

人文学概論 II (リテラシーとメディア) が開講します

リテラシーは時代とともに変化してきた

国際的な学習到達度調査の一つに、PISA (Programme for International Student Assessment) があります。このプログラムでは、世界 81 か国の 15 歳の生徒（日本では高校 1 年生）を対象に、数学、科学、読解力の 3 つのリテラシーを、3 年間かけて調査します。2022 年に発表された直近の結果で、日本はそれぞれ 5 位、2 位、3 位と、すべての範疇で前回（2018 年発表）から大きく順位を上げました。

PISA のニュースではどうしても国別のランキングが目が行きがちですが、3 つの範疇のすべてにおいて、全体の平均点が徐々に下降しているのが少々気がかりです。一体、何が起きているのでしょうか。この問に取り組むときの助けになるのが、メディア論です。

メディア論とは、新しいメディアが社会に及ぼす影響を追究する学問です。メディア論が注目する最初のメディアが、文字です。文字が新しいメディアだった時代とは、ずいぶん昔の話のように感じるかもしれません。でも、人類の歴史において、文字の登場はつい最近のことなのです。ホモ・サピエンス（現生人類）がアフリカで誕生したのは約 30 万年前だとされています。他方、最も古い文字が登場するのが紀元前 4000 年頃ですから、今から 6000 年ほど前です。30cm のものさしをイメージしてください。文字がある世界の長さは人類史の 50 分の 1 ですから、1cm の半分の 5mm に過ぎません。そして、文字が広く一般に使われ始めるのは、文字の登場からさらに後の世代のことです。人類史の大部分は、文字のない世界（無文字世界）だったのです。

無文字世界の生活にも喜怒哀楽があり、人々は人間らしい生活を送っていたに違いありません。他方、無文字世界で必要とされた「リテラシー」は、現代のそれとは全く別

はじめに

2025 年度から「人文学概論 II」が開講します。

この科目は、人文学部のカリキュラムでは、「人文学概論 I」とともに 1 年生の基幹科目に位置付けられます。「新人文主義の人文学」を掲げる前者に対し、「人文学概論 II」では、「リテラシーとメディア」がテーマです。

なぜ、メディアについての学修がリテラシー、そして人文学と関係するのでしょうか。まず、リテラシーを測るためのテストを切り口に考えてみましょう。



物でした。無文字世界では、音声のこぼ（声）を駆使してその場にいる人々の心を掴み、操作する弁論術が尊ばれました。文字という当時の人々にとっての最新のメディアの影響を一言で言うならば、この状況を一変させてしまったことです。

文字とは、発声された後に消えてしまう音を視覚的な代替物に変換する規則です。この規則を実現するには、さらに文字を空間的・時間的に固定するための表面が必要です。初めは粘土板やパピルスが表面に使われ、その後、紙が主流になったのはご存じの通りです。今ではモニター上で文字を読む機会が最も多いのではないのでしょうか。

文字が最新のメディアだったころに話を戻しましょう。文字を使うことで、人々の間にある変化が生じました。文字のある世界では、表面に固定された文章を見比べ、それぞれの言い分食い違いがないかを確認することができ、こうして、巧みな弁論に翻弄されて雰囲気や物事を決める社会が廃れ、書かれた文字に基づいて首尾一貫性を基準に是非を判断する社会が勃興しました。そして、そのような社会では、弁論術の価値が低下する一方、文字を覚え、文字を使って表現すること、つまり読み書きのリテラシーが尊ばれるようになりました。

ちなみに、リテラシーとは、ラテン語で文字を意味する littera に由来します。よって、厳密に言えば、無文字世界にリテラシーは存在しません。メディア論の W・J・オングは、無文字世界の「リテラシー」に、声を意味する or をもとにした「オラリティー」という名称を与えました*。

リテラシーは未来永劫変わらない、と考えてはいけません。そして、新しいメディアの登場は常に、新たなリテラシーの必要を予感させるのです。



21 世紀のリテラシー

PISA の平均点が下降を続けることが気がかりなもの、リテラシーの変化が今まさに生じているのではないか、という予感があるからに他なりません。確かに、数学、科学、読解力の3つのリテラシーがすぐに必要なくなるとは思えません。しかし、かつての文字がそうであったように、大変革を引き起こすメディアが登場すれば、時代が求めるリテラシーが変わっても不思議はありません。平均点が下降した背後には、必要なくなりつつあるリテラシーを測るテストに苦戦している生徒たちがいるかもしれない、この生徒たちは新しい、別のリテラシーをいち早く身に付けているかもしれず、逆に、高得点を上げ続ける生徒たちは、古いリテラシーを一生懸命に習得させられているだけなのかもしれない。これらは杞憂でしょうか。実は PISA でも、2025 年の調査で、いかにデジタルツールを活用し自己学習ができるか、という「デジタル社会での学習」能力の測定が予定されています。

大学教育も時代の変化に無関心でいることは許されません。例えば、ChatGPT のような、いわゆる生成 AI には文章を作る能力があります。当初、ほとんどすべての大学が生成 AI を教育現場から排除する方針を立てましたが、2025 年現在、こうした状況には変化が見え、生成 AI を適正に使うことを前提にした教育が模索されています。

人文学部で学ぶ「リテラシー」

適正な使用には、メディアのポジティブ＝正の面のみならず、ネガティブ＝負の面を知る必要があります。例えば、生成 AI にレポート課題を解かせると、それらしい文章を

アウトプットできる代わりに、自分で調べ、考え、表現する能力を磨く機会が失われます。磨かれず、訓練が疎かになった能力は徐々に衰えていくのが常です。メディア研究の実績をベースにした「人文学概論Ⅱ」では、正と負の両面から最新のメディアを見る目を養います。

新しいメディアにはもちろん、正の面をも見出すことができます。おそらく生成 AI も、この法則の例外ではないはずです。もし生成 AI との分業によって、それなしでは成しえなかった優れた作品や物語が創れたとしたらどうでしょう。社会はそのような成果を出せる人材を求めるに違いありません。そして、両者の分業に消極的な大学があれば、学生からも社会からも必要とされなくなるでしょう。

生成 AI に代表される電子機器は、今後益々発達し、私たちの社会に不可欠なメディアになっていきます。その際、ただ使うよりうまく使うこと、そして、うまく使うことよりも正の面と負の面を理解した上で善く使うことが大切です。

ただ生きるのではなく、善く生きることを説いたプラトンを父祖に持ち、テキストのかたちで受け継がれた膨大な文字情報に支えられているのが人文学です。人文学の伝統のもとで時間的にも空間的にも広い視野から今を捉えましょう。そして、新しいメディアをより善く使うためのリテラシーを身に着けましょう。

(英米文化学科 教授 柴田 崇)

＊オングが文字の研究成果をまとめたのが、『声の文化と文字の文化』です。是非読んでください。





人文学会 第11回大会を開催しました

第I部

ワークショップ 地域×デザイン

田中克幸（LDP（ローカルデザイン・プロデュース）代表、土着なデザイン研究所所長）

デザインとは、単なる「おしゃれ」や「目を引く」ものを作ることではありません。講義では、デザインを「伝えたいことを整理し、効果的に伝えるための設計」と捉え、その本質に迫りました。AIやデジタル技術の進化により、情報伝達的手段は多様化していますが、重要なのは「何を、どう伝えるか」。この点で、人文学とデザインは共通しています。言語や歴史、精神

的価値など、人文学が扱うテーマもまた、「誰かに何かを伝える」営みであり、その本質はデザインと重なります。

講義では、企業広告のビジュアル戦略や、北海道の地域課題解決に取り組むデザインプロジェクトを例に、視覚表現の力を一部お伝えしました。特に、「ビジュアルデザイン」は写真を一つ見せるだけで、言葉で説明するより詳細にイメージを提示することができます。例えば、ウイスキーの広告を作る際に、認知を上げたいのか、マニアに伝えたいのか、あまり飲まない人にも楽しみ方を伝えたいのかなど、目的別にビジュアルを変えることで印象が変わります。つまり、「ビジュアルデザイン」は何のためにどんな印象を与えたくて、それによってどんな効果を期待し、何を叶えるためにどのビジュアルを使用するのか、といった問いをしっかりと立てることが重要です。多言語・多文化の中でも伝わる「ビジュアルデザイン」の工夫は、グローバル社会で活躍するための重要なスキルです。高校生や大学生であっても、あなたの学びや価値観を誰かに伝えたい時に、より「伝わる」形にする力を磨くことが大切です。そのためにデザインの考え方はとても万能な手法の一つなのです。



古写真アーカイブを通じた情報教育のデザイン

谷端 郷、手塚 薫

本発表では、情報技術を活用した教育実践例の紹介と人文文学部における可能性について報告しました。実践例としては、地理情報システム（GIS）を活用して、フィールドワークで得た情報を Web マップにまとめ、それと文章や画像、動画とを組み合わせた Web アプリケーション「ストーリーマップ」を作成して、調査の成果を発信する取り組みを紹介しました。この取り組みでは、文学作品の舞台や作品世界の解釈、調査対象地域の「七不思議」を紹介するものなど、魅力的な作品が学生によって生み出されました。このような経験から、卒業アルバムや同窓会の資料など大学関連の写真資料に着目した、情報技術の習得と体験型の学習とを組み合わせた教育実践の可能性を検討しました。具体的には、写真資料のデジタルアーカイブ、写真の撮影地点を特定する調査、その写真を頼りに地域の歴史に詳しい方々への聞き取りなどを行い、景観の変化や住民の記憶から大学周辺の歴史を探究する内容です。明治期に遡るような写真は少ないものの、今後新たに発掘される可能性もあります。これによって、歴史資料のアーカイブやフィールドワークの方法といった人文文学の諸分野で必要とされている調査・研究手法

と情報技術との有機的な結びつきを実践的に学ぶことができます。それだけでなく、得られた成果を大学史や地域史に還元できるほか、普段接する機会の少ない異なる世代とのコミュニケーションを通じて新旧の情報を統合し、歴史的背景を踏まえてその意義を考察するなど、人文文学部ならではのアクティブラーニングに発展することが期待されます。



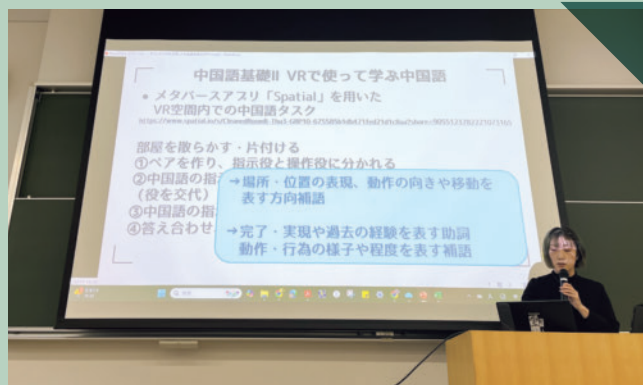
AI や VR を活用した中国語教育のデザイン

杉江聡子

杉江の発表では、生成 AI や VR（仮想現実）などの先進技術を活用した中国語教育の実践と、その教育的可能性について報告された。授業実践では、オンラインホワイトボード「Miro」、3D モデリングツール「Tinkercad」、VR プラットフォーム「Spatial」などを活用しています。

例えば、中国文学Ⅱの授業では、学生が中国文学のキーワードや怪奇小説の中に描かれた世界観や神話的な想像力を読み取り、それを VR 空間内で 3D モデルやコンテンツとして構築し、他者との対話を通じて共有する取り組みを行いました。これは文学の読解が言語や文字を通じた抽象的な解釈にとどまらず、身体性や空間性を伴った具体的な体験として深化することを実証する試みと言えます。

中国語の授業では、学生がペアやグループになり、VR 空間上で中国語の指示を聴いて、「部屋の片付け」などの具体的な動作や移動を実践するタスクを行いました。「世界旅行と思い出報告」のタスクでは、VR 空間のコンテンツを学生自身が追加し



ながら、行きたい国を中国語で述べ、旅の仲間を探し、記念写真と旅行報告をする等の活動を行いました。これらは、希望・完了・感想・誘いなどの文法表現を実際の状況で運用しながら学ぶことを目的としており、学習者の主体性や協働性を高める効果が見られました。

こうした学習環境は、従来の知識習得や四技能（読む・書く・聞く・話す）の習得に偏った教育から、テクノロジーを学習資源と見なす、協働的で創造的な学びへと転換を促すものです。生成 AI の急速な進化と普及を背景に、言語教育における教授設計（インストラクショナル・デザイン）の再考と、教師の役割の再定義が求められています。教師は単なる知識や技術の伝達者ではなく、学習環境を設計・調整する「設計者」、学習活動を支援する「ファシリテーター」、生成 AI や XR と協働して新たな学びを共に創り出す「メンター」としての役割を担い、対話と創造を基盤とした新たな人文文学教育の実現を目指すべきでしょう。





【講評】人文学部長 小松かおり

2024年度の優秀卒業研究賞候補作品は、対象に対する強いこだわりが伝わってくる作品が揃いました。どの研究も、好きなもの、興味を惹かれたことにコスパ、タイパを無視して没頭する、という卒業研究の魅力を発揮されていて、興味深く読みました。それぞれの論文に、丁寧な

受賞者のコメント



量的分析、ひとつひとつのことにこだわった分析、困難な現実を突破する方向性についての真摯な検討、など、異なる魅力がありました。

今回は、残念ながら最優秀賞がありませんでした。あと一歩がどこにあるかは作品によって異なりますが、ひとつは、自分

人文学部では、言語・文学・歴史・思想・環境の5つの研究分野に英語論文を加えた6領域で教員が優秀な卒業研究を選出し、表彰しています。2024年度は優秀賞5本を選出し、その表彰式を2025年3月8日(土)に開催しました。受賞者の皆さんのすばらしい研究成果を讃えます。



受賞者と小松先生の集合写真

の作品の魅力と限界(この主張は説得力が弱いのではないか、先行研究との違いは何か、この研究が人間の理解にどのように資するのか)ということを自分で説明できる客観性です。そこを突破できると、さらによい論文になると思います。

今回の研究で、ひとつのテーマに取り組んでやりきった感覚は、今後の仕事人としての自分、社会で生きる人としての自分にきっと役に立ちます。社会に出て新しく取り組むべきことが見つかったとき、みなさんにはすでにそれに取り組むスキルが身についています。そのスキルを武器に、自分をみつめ、世界をみつめて、この世界を生きぬいてください。

卒業と受賞、おめでとうございます。

最優秀賞

該当者なし

優秀賞

【言語分野】伊藤みらいさん 日本文化学科 丸島歩ゼミ
ヒット曲における歌詞のアクセントと旋律の関係性

【文学分野】木村日和さん 日本文化学科 田中綾ゼミ
泉鏡花『歌行燈』の表題に隠された意味―「うた」の描写における月と行燈の象徴性から―

【歴史分野】高田奈々さん 英米文化学科 大森一輝ゼミ
アイヌ文化の商品化と相互理解の調和のために―認証制度の可能性―

【思想分野】平澤遼香さん 日本文化学科 鈴木英之ゼミ
宮澤賢治の作品における日蓮仏教の影響について

【環境分野】川上あいさん 日本文化学科 手塚薫ゼミ
中川町が観光目的地として選ばれるためには―「おてつたび世代」のツーリズムの視点から―

2024 年度 卒業研究題目一覧（一部）

◆日本文化学科

言語文化 【言語】	- 色の感じ方と色彩感覚を探る - 近代の日本における翻訳の成り立ち - 恩田陸の文体特徴分析——『蜜蜂と遠雷』の句読点の全数調査—— - やさしい日本語の認知率向上のために何ができるか
言語文化 【文学】	『中務内侍日記』における『源氏物語』享受の諸相 - 玉鬘十帖の人物造型 - 流動する『砂の女』論——男と女の象徴性からタイトル考へ—— 『風立ちぬ』試論
思想文化	- 六観音信仰の歴史と変遷 - 酒と日本仏教 - なぜ人々は、神でも仏でもない牛頭天王を信仰したのか
歴史文化	- 日本社会におけるケガレの認識とその変化 - 千歳神社祭の歴史と意義 - 大正政変の研究
環境文化	- おたる潮まつりと小樽市民の関係性 - レジリエンスを向上させる方法とそれに伴うメンタルヘルスの変化について - アイヌ口承文芸におけるシカの動物観——更科源蔵『アイヌ民話集』を中心に——

◆英米文化学科

言語文化 【言語】	- 英語における性差表現の変化とジェンダーニュートラル表現の可能性 - 日英の諺を比較して読み取る文化——シェイクスピアの時代に生まれた諺を中心として—— - 非対面コミュニケーション手段における文化の考察——日本人とネパール人を例に—— - 映像作品を用いた英語学習の可能性——語彙知識と動機づけに焦点を当て——
言語文化 【文学】	- 社会が多様化すると、人は生きやすくなるのか——容姿に対する強迫観念を例に—— - カズオ・イシグロ作品において読者が主人公に持つ不信感とは - ヴィラン映画の登場とヒーロー像の変化——<i>JOKER</i>の社会的意味—— - 現代ハリウッド映画から見る日本
思想文化	- キリスト教はなぜ動物を象徴化するのか——象徴性と神学的意義の分析—— - グレゴリオ暦の導入が社会に与えた影響 - トマス・モア『ユートピア』における思想史的意義
歴史文化	- 現代奴隷制における強制労働問題の展望——技能実習制度とグローバルサプライチェーンに関して—— - ヴィシー体制下のフランス——レジスタンスの観点から—— - フランス革命期における女性の権利——オランブ・ドゥ・グージュの生涯と人権宣言の観点から—— - ヴィクトリアズ・シークレットからみるジェンダーと多様性
環境文化	「かわいい」の光と影——アサーティブな自己表現を目指して—— - アンコンシャス・バイアスと女ことば——『もののけ姫』を通じたジェンダー表現—— - ランドセルの多様化は何をもたらしたのか - 子ども食堂の役割——居場所としての子ども食堂——

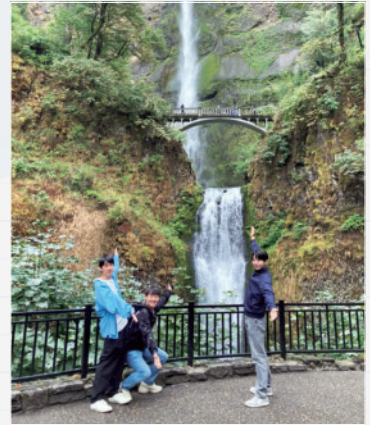
2024年度 英米文化特別演習報告

英米文化特別演習は第1学期に留学に向けた準備学習を行い（英米文化特別演習Ⅰ）、夏休みに英語圏の大学で3週間の短期留学プログラムに参加します（英米文化特別演習Ⅱ）。2024年度は初めてアメリカ・オレゴン州のポートランド州立大学（PSU）のプログラムに参加しました。

札幌の姉妹都市であるポートランド市内の美しいキャンパスでは午前中に英語運用能力を伸ばす授業を受け、午後はポートランドの食文化やツーリズムなどについて、街中のカフェやポートランド観光協会に出かけるフィールドワークも交えて学びます。プログラム期間中にはオレゴン海岸とコロンビア渓谷への日帰りトリップもあり、オレゴンの雄大な自然に触れることができました。

プログラム期間中はポートランド近郊の家庭でのホームステイとなります。多様な文化的背景をもつホストファミリーと毎日の生活を共にし、さらに週末は様々な場所に出かけたりと楽しい時間を過ごすことができました。

PSUのプログラムに加え、姉妹都市である札幌からポートランドを訪れた学生として、英米文化特別演習独自の活動も行いました。留学中にはPSUのキャンパスで開かれるファーマーズマーケットで札幌の魅力を伝えるオリジナルポストカードを配布し、帰国後の9月にはポートランド市長の札幌訪問に合わせてポートランド観光協会がさっぽろテレビ塔下に設置した特別ブースのお手伝いをしました。英米文化特別演習は、参加者が英語と文化を学ぶ機会となっただけでなく、札幌とポートランドの友好関係にも貢献できたものと思います。

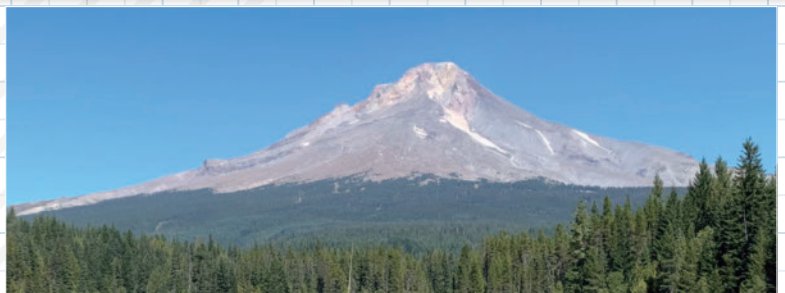


英米文化学科 3年 河野 尚孝

私が英米文化特別演習に参加したきっかけは、今年度からプログラムの内容が変更され、留学先がアメリカになったと知ったからです。私は海外に行って英語を学びたいと、大学に入ったころから考えていました。しかし、自分の英語にあまり自信がなく、気づくと大学3年生になっていました。大学の講義でアメリカの文化について学んだことでアメリカへの興味が強くなったので、この機会を逃すわけにはいかないと考え、英米文化特別演習に参加しました。

この演習では、アメリカと日本の文化の違いを様々な視点で学ぶことができました。初めはホストファミリーの英語を聞き取ることができない、言いたいことを英語で伝えられないという経験をしました。しかし、ホストファミリーや友人と毎日英語で話すことで徐々に慣れていきました。PSUの授業では、午前のクラスでは英会話を、午後のクラスでは観光事業について学びました。観光についての授業のフィールドワークでは、現地の人々に質問し、回答してもらうこともありました。平日の放課後は授業の課題に取り組んだり、ダウンタウンでショッピングをするなどして過ごしました。土日は基本的にホストファミリーと出かけていました。留学で出会ったホストファミリーや友人と、今でもたびたび連絡を取っています。

3週間という短い期間でしたが、とても有意義な留学だったと思います。この留学の経験が、帰国後の私の英語学習を後押ししてくれています。



英米文化学科 2年 中澤 紬

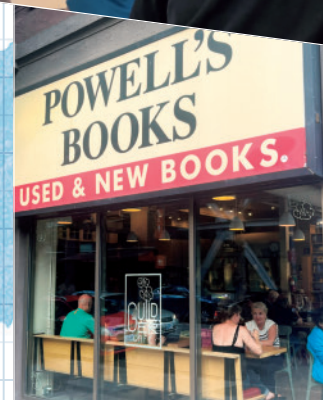
大学在学中に留学を経験したいと考えていましたが、初めての海外でもあり、長期間滞在するのは不安がありました。しかし、現地に行くまでの事前学習で日常会話などの英語表現を学ぶほか、留学に必要な申請などを受講生全員で行うことができ、安心して出発当日を迎えることができました。

留学中の生活はホームステイです。私の場合は70代の女性との二人暮らしでした。一緒に家で映画を見たり、プールで泳いだり、ドライブで現地を案内してくれたり、楽しい思い出ばかりです。最初の1週間は、周りの人が話す英語がなかなか聞き取れませんでした。毎日英語に触れたことで、自然と「英語が聞き取れる耳」になり、会話が楽しめるようになりました。

PSUの授業は学生同士のペアワークが多く、使う言葉はもちろん全て英語です。自分の考えを正確に伝えること、相手の意見を理解するための実践的な英語表現を学ぶことができ、有意義な時間になりました。

授業以外に、このプログラムに参加した人たちと一緒にビーチやショッピングモールに行くアクティビティもあります。買い物や食事の時の店員さんとのやり取りも学びに繋がります。気軽に友達とカフェに行ったりすることもできるようになりました。

初めての留学に不安を感じる人は多いと思います。わたしもそうでした。けれど、現地での生活はたくさんの刺激があり、自分を大きく成長させてくれます。大切なのは、一歩を踏み出すことです。



英米文化学科 2年 萩田 菜々子

私はこの演習が初海外ということもあり、色々不安がありました。しかし、現地に行くまで授業で入国に必要な手続きや、文化・英語表現などを事前に学べたため、安心して出発することが出来ました。

PSUには、北海学園大学以外からも学生が来ているので、様々な人と出会い、共に学ぶ事が出来ます。「英語を上達させたい」とやる気のある人ばかりなので、クラスは活気で溢れており、私もつられて積極的に学び、活動することが出来ました。

PSUでは、英語だけでなく、自分が興味のある分野についても学習することが出来ます。私は Toursim (観光) を選択しました。この授業も英語で進められます。現地学習で訪れた先の店員や利用者のみなさんも優しい人が多く、私の拙い英語のアンケートや質問に快く答えてくれました。おかげで、ポートランドの観光の実態をより深く学ぶことが出来ました。

ホームステイ先では、ホストファミリーと英語でコミュニケーションをとります。言語だけでなく、宗教や文化も違うので、毎日が新鮮で学びの絶えない日々でした。私のホストファミリーは毎週教会に連れて行ってくれて、キリスト教の教えや教会で行う活動の意味を丁寧に説明してくれました。ホストファミリーと過ごせる時間はそれほど長くないので一日一日を大切にすることをお勧めします。

このように短期間の留学ですが、事前準備をした上で英語に触れる機会をたくさん持てるため、初めて海外に行くという人にお勧めの演習です。



歩・見・聞 く る く

を通して

世界との関係を考える 文化遺産特別演習



日光東照宮の鳥居

文化遺産特別演習は日本各地に所在する世界遺産を巡り、「歩く・見る・聞く」といった現地体験を通じて文化を学び探究するアクティビティ・ラーニング型の演習科目です。2024年度は関東（とくに北部）を訪れました。具体的には、「日光の社寺」（日光東照宮など）、「富岡製糸場と絹産業遺産群」、「国立西洋美術館」の3つの世界遺産と、渋沢栄一記念館や浅間山北麓ジオパーク、首都圏外郭放水路などを4泊5日の日程で巡りました。参加したのは1年生から4年生までの6名です。

今回の訪問箇所は一見まとまりに欠けるように見えますが、聖地巡礼の批判的検討、教科書に出てくる富岡製糸場のその後、日仏交流、ジオパークの比較など、受講生の興味関心に応じて実に多様なテーマが設定されました。研修4日目を自主研修（各自の自由行動）にあてたところ、都内にとどまらず隣県にも足を運んだり、事前にインタビューのアポイントメントをとった上で訪問したりするなど、受講生の積極性が窺えました。

最終的にまとめられたレポートを読むと、ダークツーリズムを実際に体験することをテーマに掲げ、実際に訪れたときの自身の気持ちに向き合ったものや、文化を学び探究する1つの方法として、実際に五感を駆使して体験してみる活動も有意義であることを再認識しました。



渋沢栄一の生家

製糸業関連施設を複数訪れて見いだしたメリット／デメリットから、相互を結びつける産業観光の可能性を提示したもののなど、フィールドワークの成果がありありと記述されていて感心しました。

教科書を飛び越えて

日本文学科 3年 東田 純奈

「そうだ 関東、行こう。」

皆さん、こんな風に思うことはあるでしょうか。どこか旅行へ行く際、東京を含む関東圏はその目的地として選ばれやすい土地だと思います。今回の文化遺産特別演習ではそんな関東へ行ってきました。

ただ関東に行く、とはいってもこの授業はただの旅行ではありません。今回は主に北関東の文化遺産を中心に、富岡製糸場・日

光の社寺・国立西洋美術館などを訪れ、メンバーはそれぞれが設定した研究テーマに沿って視察を行いました。

私はこの授業を通じて、富岡製糸場を中心に産業観光

の在り方について検討しました。正直に言う、この授業を受けるまで私にとって富岡製糸場は「教科書の中の建物」でした。しかし、実際に自分の足で歩き、自分の目で見たことで、教科書の中のものだった富

岡製糸場は実態をもって私の中に存在するようになりました。富岡製糸場のほかにも、自分で計画を立てて関東圏の製糸業関連施設を巡ったことは、自分だけの学びとして深く心に刻まれました。

教科書を越えた深い学びを得ることができるのは、本授業の大きな魅力ではないでしょうか。4泊5日の旅程で、自分ではなかなか行かないような場所に行くことが出来たことは、私の大学生活においてかけがえのない経験になりました。

文化遺産特別演習は、自分で体感する学びを得られるまたとない機会です。

「そうだ 文化遺産特別演習、取ろう。」

拙稿を読んでそんな風に思っただけだったら幸いです。



東京農工大学科学博物館の展示物



国立西洋美術館の館内



「なんで？」を追求する

日本文化学科 3年 大鳥居 沙紀

文化遺産特別演習に参加した私が伝えたいのは、自分で1からテーマを決めて調査することは本当に楽しいということ。私は友達に誘ってくれたということもあり、面白そうだし、経験にもなりそうだし、やってみるかという気持ちで文化遺産特別演習に参加しました。何もない状態から、自分で研究テーマを決めて調査をしていきます。私は事前準備の段階で「なんで？」と疑問に思った、日本とフランスとの関わりをテーマとして追求することにしました。最初は調査がうまくいくのだろうかという不安もありましたが、これだ！というテーマが決まってからは、調査が楽しくてのめり込んでいきました。

悩みながらテーマを決めて、先生方からアドバイスをいただいて、文献を読んで、調査のために訪問する場所を選んで、実際に足を運ぶ。地域の美味しいものも食べつつ、現地で聞き取りして吸収したものや感じたことはすべて地域の理解や学びにつながります。今見返しても、自分頑張ったな、と思ってしまうほどのメモの量。1人で知らない地を歩くフィールドワークは、まるで冒険



のよう。テーマについてたくさん考えて追及できた旅は本当に楽しいものでした。そんな自分を成長させてくれる、文化遺産特別演習。あなたも挑戦してみませんか？



成果報告会



文化遺産特別演習は、ただ漠然としていた「教科書の中の遺産」を「実際にそこにある存在」として、確かなイメージを持つことができる機会を与えてくれました。

文化遺産は、国や地域を象徴する誇りと価値を持つ存在です。だからこそ、その地域を実際に訪ねなければ感じることの難しい関わりがあります。例えば「富岡製糸場と絹産業遺産群」は製糸場内での関わり、富岡市全体との関わり、そして日本、世界との関わり。そして、普段クローズアップされる技術革新を果たした工場としてだけでなく、地域に根ざし、戦後も稼働した製糸工場としての姿。あるいは、世界遺産として登録されたあとの象徴としての姿。これらは、実際に訪れ、体験することでより鮮明に浮

百聞は一見に如かず

日本文化学科 2年 菅谷 駿希

かび上がってきたあり方でした。

文化遺産特別演習は、「知りたい！」という目的意識を与えてくれます。初めて現地に訪れる人はもちろん、すでに訪れたことがある人でも、前には気づかなかったことだらけの研修になるでしょう。また、私は生まれも育ちも北海道でしたから、関東地方を巡るというだけでも、常にワクワクに満ちた体験となりました。令和7年度の研修では沖縄が研修先とのことなので、より独特な雰囲気を感じることができるかもしれません。単なる観光だけでは収まらない、特別な体験。好奇心を持ったのならば、一考してみてもいいかがでしょうか。



日本文化学科

南 明世
3年ゼミ(1部)
【日本語学】



私のゼミでは、日常的に用いられている日本語の表現について、文法・語彙の観点から理論的かつ実証的に考察することを目的としています。「私たちは日本語をどのように使っているのか」「その使い方にはどのような規則や傾向があるのか」といった問いに対し、客観的なデータに基づいてアプローチする姿勢を重視しています。そのための主な手法として、言語コーパスを活用した分析を行います。コーパスとは、実際の使用実態を記録した大規模なテキストデータの集合であり、ゼミでは主に「現代日本語書き言葉均衡コーパス」および「日本語話し言葉コーパス」を用います。これらを活用することで、特定の表現の使用頻度や共起関係、文脈における機能などを数値的に把握し、多角的な分析が可能となります。たとえば、「～てしまう」「～ようだ」といった文法形式が、話し言葉と書き言葉でどのように異なるかを調査・分析することで、形式的な知識だけでは捉えきれない日本語の実



態を明らかにすることができます。

授業では、コーパスの検索方法やデータの処理・解釈の仕方を段階的に習得しながら、グループワークや個人発表を通じて学びを深めていきます。調査結果を的確に記述し、論理的に説明する能力を養うことも重要な目標の一つです。ことばは単なる伝達手段ではなく、思考を整理し、自分の感情や意志を表現し、他者との関係を築くための手段です。ゼミでは普段自分が何気なく使っている表現を深掘りすることで、単に日本語の知識を得るだけでなく、「なぜその表現を選ぶのか」「その言葉は相手にどう伝わるのか」といった、言語使用における選択とその影響について深く考察する力を身につけていきます。

ゼミ紹介

英米文化学科

仲松 優子
3年ゼミ(1部)
【フランス史】



私のゼミでは、フランスの歴史や、フランスの歴史がどのような視点から研究されてきたのかという点について、ヨーロッパ他地域との関係や比較も視野にいれながら学んでいきます。重視しているのは、フランスやヨーロッパの歴史をその内部でおこる事象としてのみ理解するのではなく、植民地などヨーロッパの外部との関係も視野に入れていくことです。また、身分・階級やジェンダーといった、フランスやヨーロッパの内部の多様性や権力関係を含めて、歴史を理解することを目指しています。

授業では、1年間をとおしてテーマに則した文献を精読することに力点を置いています。発表担当者は、テキストの内容についてレジュメを作成し、ゼミではこれに基づいて、参加者全員でその内容について議論し、テキストに対する意見や質問事項などを考えて発言してもらいます。これを地道に繰り返し行うことをとおして、テキストに基づいて発表し討論する力を身につけてもらいます。また、1学期は通



史を基礎として学び、2学期は歴史をみる視点について取り上げたテキストを読んでいます。これをとおして、各自の卒業研究のテーマを明確にしてもらい、3年生の終わりに研究発表を行うことが、このゼミの最終的な目標になります。

ゼミでは、フランスおよびヨーロッパの歴史を主な研究対象としますが、そこから世界に視野を広げ、現在の社会で起きていることを理解することに学びをつなげていくことも可能です。フランスやヨーロッパが歩んできた歴史を、現在の問題を考える契機としてとらえ、歴史学的な知見から現在の私たちの世界について理解を深めていきます。

就活応援



卒業生からの 体験談

木村 日和

日本文化学科1部
2025年3月卒業

北海道高校
国語科教員 勤務



私は、今まで出会ってきた先生方に憧れて教員を志し、北海学園大学への進学を決めました。そして、この度、北海道公立学校教員採用候補者選考検査に合格し、国語の先生になることができました。

大学では様々な学びを得ました。とくに教職課程の教育法の講義では、現役の教員の方々や元教員の先生方から指導案の書き方や授業の作り方等を丁寧に教えて頂くことができ、その学びが二次試験や教育実習で生きてきました。また、オープンキャンパスのスタッフとして人前に立っていた経験も面接で役立ちました。

教職だけではなく、他の職業や他の試験でも大学での学びは何かしらの形で生きてくると思います。講義やサークル活動など大学でしか得ることができない学びをたくさん得て、それを自分の力にしていけることが希望の仕事に就く近道なのかなと思います。

拙いアドバイスしかできませんでしたが、皆さんの内定や合格を祈っております！最後まで諦めず、就職活動や試験受験、頑張ってください！

三関 美海

英米文化学科1部
2025年3月卒業

ニッテレ債権回収
株式会社 勤務



私は、3年の後期になっても公務員が民間が決めることができず、本格的に就活を始めたのは4年になる直前からでした。志望業界も定まらないまま、基礎セミナーや説明会に参加し、手探りの状態で進めていました。

面接を受ける機会が増えたと、自分の興味や働くうえで大切にしたい条件が少しずつ明確になりました。そして最終的には、自分に合う業界を見つけ、内定を得ることができました。面接対策は、新卒向けの就職エージェントにサポートしてもらいながら進めていました。実際の面接では、サークルでのグループ活動が役立ちました。

私は就活のモチベーションが直前まで上がらなかったため、セミナーや説明会にたくさん予約し、強制的に動かざるを得ない環境を作ることで、なんとか乗り切りました。最初から志望する業界ややりたいことが決まっていなくても、何とかあります！遅すぎるということはないと思います。焦らず、自分のペースで進めてください！

酒井 海里

日本文化学科2部
2025年3月卒業

豊栄建設株式会社
勤務



私の就活の軸は「生まれ育った北海道で仕事をしたい」ということと、「人と話すことができる仕事をしたい」誰もが思っているような理由でした。コミュニケーションを取ることが多い仕事は営業だと思い、営業職を志望しました。実際に内定を頂いた企業は住宅の営業職なのですが、業界などは絞らず視野を広く持ち、就活を進めました。

様々な事情があり、就活を始めるのが大学4年生の4月からでした。周りの友達より遅い動き始めたためとても不安でしたが、周りの協力のおかげで内定を頂く事ができました。

私が就職活動で一番大切にしていたことは「第一印象」です。面接や説明会で挨拶するときなどは大きな声で、笑顔できるようにしていました。あたりまえの事かもしれませんが、印象はその後の選考などにも関わるので、意識してみるといいかもしれません！

老月 咲桜

英米文化学科2部
2025年3月卒業

北海道警察 勤務



私は元々、公務員になりたいというざっくりとした目標しかなく、学内の公務員講座を受けたり、模試を受けるなどして対策をしてきました。そして、どのような公務員になりたいのか、どのようにして北海道の人々の生活に貢献できるかなど具体的なことを考えながら、説明会やインターンに積極的に参加をしました。さらに、自分の強みを増やすために、留学をして異なる文化に触れたり、資格を取ることで、アルバイトなどのガクチカに力を入れることも意識して大学生活を送ってきました。このようにして、面接のときに話題となる自己アピール部分を作るも大切だと思いました。

就職活動をする中、公務員は民間よりも内定が出るのが遅く、不安になることもあると思います。ですが、焦らず自分の就活軸を見失わずに活動することで納得のいく内定を得ることができます。また、不安な時は先輩や、家族、友達、先生、キャリア支援センターなどに頼って頑張ってください！

キャリア支援センター

98,000名超の卒業生を輩出してきた豊富な経験や情報を背景に、1年次から学生のキャリア形成や就職活動をサポートするのがキャリア支援センターです。民間希望学生と公務員希望学生それぞれに合ったスケジュールでガイダンスや各種セミナーを年間500コマ以上開催。また多くの企業がキャリア支援センターを来訪し、年間8,000件以上の求人を学生へ公開しています。個別相談にもきめ細かに対応し、面接練習や書類添削なども行っています。

2024 済州国際青年フォーラムに

人文学部の学生が参加しました

人文学部日本文化学科 3 年の伊原綾花さんが、11 月 1 日～3 日に韓国の済州島で行われた 2024 済州国際青年フォーラム (JIFF) に参加しました。このフォーラムは、済州やその姉妹都市から青年たちが集まり、グローバル課題解決のための方策を、ともに探求することを目的としています。

伊原さんは、北海道をはじめとした日本における外国人就労者の受入れと多文化共生の取り組みについて英語で発表し、他の参加者と意見交換を行いました。



北海学園大学人文学会第 11 回大会が開催されました



2025 年 1 月 23 日 (木)、第 11 回の北海学園大学人文学会を開催しました。人文学部では、生成 AI の本格的な導入を見越して、カリキュラムや関連科目の見直しを進めています。今大会は、学部独自の教育を展望するために、デジタル技術の社会実装の学内外の知見を得て、それらを基に意見交換する機会とすることを目指しました。

第 I 部では、LDP (ローカルデザイン・プロデュース) 代表として厚真町を拠点に「地域×デザイン」のテーマで活躍されている田中克幸氏にお話しいただきました。

第 II 部では、本学人文学部の杉江聡子先生、谷端郷先生、手塚薫先生よりデジタル技術を用いた教育デザインの実例を紹介いただきました。

日本文化学科の学生が、「言語学フェス 2025」で研究発表を行いました

人文学部日本文化学科 4 年生の伊藤みらいさんが、2025 年 2 月 1 日 (土) に行われた「言語学フェス 2025」に参加し、卒業研究の成果をもとに研究発表を行いました。

「言語学フェス」は、言語学に関心がある人同士の交流を目的とした、オンラインによるイベントです。伊藤さんは「ヒット曲におけるアクセントと旋律の関係性」というテーマで発表し、フロアから多くの質問やコメントをいただきました。

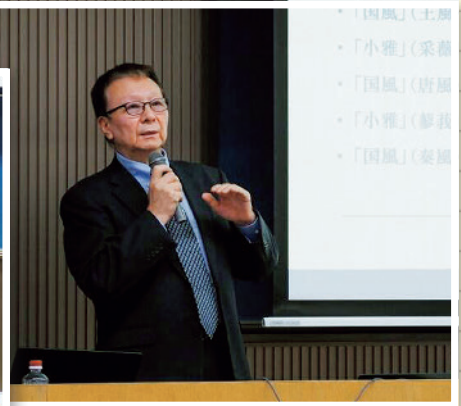


テレント・アイトル教授の 退職記念最終講義が行われました

2025年3月8日（土）に、2024年度で北海学園大学を退職されるテレント・アイトル教授の退職記念最終講義が行われました。講義題目は、「神話・詩・死」です。

当日は、現役の学生や教員・職員をはじめ、かつての教え子が多数来場し、テレント・アイトル先生の新たな門出をお祝いました。

先生の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。



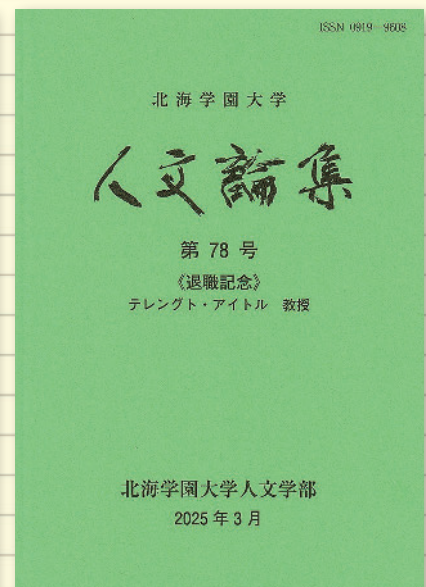
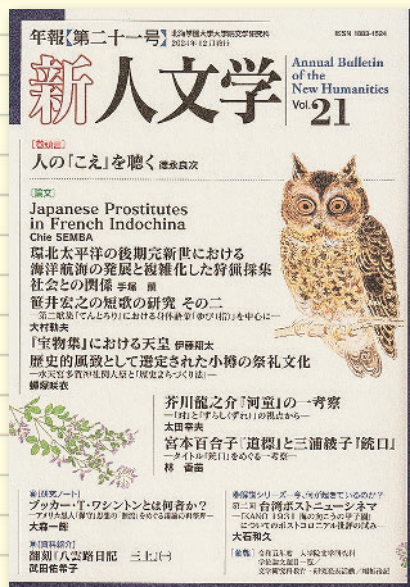
文化遺産特別演習報告書第4号が刊行されました

文化遺産特別演習は、日本各地にある世界遺産の周辺で研修旅行を行い、「歩く、見る、聞く」学習を通して、日本文化とその世界的な意義についての理解を深めるための演習です。

2020年、21年と新型コロナウイルスの流行を受けて中止していましたが、22年（東北地方）、23年（九州北部：平戸・長崎）に続いて24年度は「関東（とくに北部）」を研修先として実施しました。研修では、世界遺産「日光の社寺」（日光東照宮など）、「富岡製糸場と絹産業遺産群」、「国立西洋美術館」を中心に、渋沢栄一記念館や浅間山北麓ジオパーク、首都圏外郭放水路などを9月10日（火）～14日（土）の4泊5日の日程で巡りました。

研究成果を社会に発信

2024年12月に『年報新人文科学』第21号（写真左）を、2025年3月に『人文論集』第78号（写真右）を発行しました。前者は、大学院文学研究科が発行する学術誌です。人文学に関する論文・研究ノート・資料紹介・書評などを募り、編集委員会による査読を経て掲載しています。後者は、学部教員の日頃の研究活動を発表する刊行物です。1993年の人文学部発足以来、その理念である「新人文主義」を発信する役割を果たしています。



就職・進学情報

[2025年3月までの集計結果]

2022～2024年度卒業生内定先・公務員登録先（人文学部1部および2部）※順不同。誌面の関係上各業種一部のみ掲載しています。

業種	企業／団体名
サービス業	北海道エアポート株式会社／セントラルスポーツ株式会社／株式会社エヌ・ティ・ティ・ビジネスアソシエイト日本／株式会社カナモト／株式会社エイブル／株式会社マイナビ／高木工業株式会社／加藤観光株式会社／株式会社北海道アルバイト情報社／日研トータルソーシング株式会社／北ガスフレアスト株式会社／日本衛生株式会社
医療・福祉業	北海道国民健康保険団体連合会／札幌臨床検査センター株式会社／公益社団法人北海道労働者医療協会／北海道厚生農業協同組合連合会／医療法人社団札幌道都病院／社会福祉法人北ひろしま福祉会
飲食業	株式会社竹山／株式会社イーストン／株式会社大東エントランス／有明株式会社／株式会社牧家／株式会社シングスアンドクラフト
運輸業	北海道旅客鉄道株式会社／ANA新千歳空港株式会社／ANAエアポートサービス株式会社／株式会社AIRDO／ANA成田エアポートサービス株式会社／株式会社JALナビア／株式会社JALスカイ札幌／日本貨物鉄道株式会社／日本郵政グループ／日本通運株式会社／ハートランドフェリー株式会社
卸売業	東日本フード株式会社／株式会社良品計画／北海道／バル株式会社／株式会社北海道クボタ／北海道いすゞ自動車株式会社／北海道三菱自動車販売株式会社／丸九株式会社／レッドブル・ジャパン株式会社／株式会社スズキ自販北海道／北海道日産自動車株式会社／トヨタモビリティパーツ株式会社／日立建機日本株式会社／コクヨ北海道販売株式会社
教育・学習支援業	学校法人北海学園／学校法人学習院／学校法人日本医療大学／国立大学法人北海道国立大学機構／株式会社スタディーネットワーク／北海道情報大学／日本赤十字北海道看護大学
金融・保険業	株式会社北海道銀行／株式会社北洋銀行／北海道労働金庫／北海道信用金庫／ニッテレ債権回収株式会社／株式会社かんぽ生命保険／明治安田生命保険相互会社／第一生命保険株式会社（札幌総合支社）／北見信用金庫／第一生命ホールディングス株式会社／東京海上日動火災保険株式会社／日本生命保険相互会社／株式会社北陸銀行
建設業	西松建設株式会社／第一建設株式会社／株式会社クロスティホールディングス／株式会社北海道シミス／恵庭建設株式会社
宿泊・旅行業	株式会社JTＢ／株式会社エイチ・アイ・エス／株式会社星野リゾート・トマム／クラブツーリズム株式会社／鶴雅リゾート株式会社／株式会社マイステイズ・ホテル・マネジメント／アパホテル株式会社／名鉄観光サービス株式会社／株式会社グランベルホテル／JR北海道ホテルズ株式会社
小売業	株式会社ユニクロ／株式会社ニトリ／株式会社セコマ／株式会社ダイイチ／株式会社柳月／ゲンキ株式会社／株式会社丸善ジュンク堂書店／株式会社北一硝子／イオン北海道株式会社／株式会社ツルハ／株式会社ヨドバシカメラ／生活協同組合コープさっぽろ／青山商事株式会社／株式会社ビックカメラ／株式会社サンドラッグ／株式会社羽田エアポートエンタープライズ／株式会社ホクレン商事
情報・通信業	株式会社リクルート北海道じゃん／株式会社北海道新聞社／株式会社北日本広告社／株式会社北海道ジェイ・アール・システム開発／株式会社北海道通信社／エイチ・デー・ビー映像株式会社／株式会社エヌアイディ／応研株式会社／株式会社エフエムとよひら／株式会社NTT東日本－北海道／システムデザイン開発株式会社／青山商事株式会社／株式会社丸亀／ブックオフコーポレーション株式会社／ジュビターコーピー株式会社
製造業	北海道電力株式会社／日本住宅総合開発株式会社／あかつき印刷株式会社／持田製薬株式会社／サンマルク食品株式会社／旭川ガス株式会社／株式会社もりもと／株式会社ホクエイ／岩橋印刷株式会社／日産製パン株式会社／株式会社エネサンス北海道／英和工業株式会社
専門・技術サービス業	司法書士法人キャスグローバル／税理士法人すずらん総合マネジメント
不動産業	豊栄建設株式会社／株式会社ニッテイ／株式会社AndDoホールディングス／大和ハウス工業株式会社／北海道セキスイハイム株式会社／北海道空港株式会社／株式会社スウェーデンハウス／札幌駅総合開発株式会社／株式会社三光不動産
複合サービス業	ホクレン農業協同組合連合会／公立学校共済組合北海道支部／公立学校共済組合北海道支部／札幌商工会議所／恵庭まちづくり協同組合／札幌市農業協同組合／公益財団法人札幌市芸術文化財団／サツラク農業協同組合／きたそらち農業協同組合／一般社団法人日本自動車連盟／公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会

公務員名称

国立研究開発法人水産研究・教育機構／国税専門官／財務専門官／国家公務員一般職（防衛省）／国家公務員一般職（総務省）／国家公務員一般職（総務省）／国家公務員一般職（国土交通省）／国家公務員一般職（財務省）／国家公務員一般職（北海道開発局）／北海道職員（一般行政）／北海道職員（警察行政）／北海道職員（警察行政）／自衛隊一般書候補生／札幌市役所（一般事務）／札幌市役所（学校事務）／札幌市消防／日本年金機構／北海道警察／北広島市役所／北広島市消防／千歳市役所／紋別市役所／函館市役所／美幌市役所／恵庭市役所／苫小牧市役所／国立大学法人北海道教育大学／美深町役場（上川町村会）／芽室町役場（十勝町村会）／幌加内町役場（上川町村会）／共和町役場（後志町村会）／むかわ町役場（胆振町村会）／平取町役場（日高町村会）／長沼町役場（空知町村会）／上ノ国町役場（檜山町村会）／北海道教員／東京都教員／臨時教員（高等学校）／臨時教員（中学校）

2022～2024年度 教員採用状況

2022年度					2023年度					2024年度				
教員	科目	合格者数 ※（ ）内は期限付	公立学校	私立学校	教員	科目	合格者数 ※（ ）内は期限付	公立学校	私立学校	教員	科目	合格者数 ※（ ）内は期限付	公立学校	私立学校
公立学校	国語	中学	0(2)	6(2)	公立学校	国語	中学	4(0)	9(2)	公立学校	国語	中学	4(0)	8(1)
		高校	2(0)				高校	2(1)				高校	3(0)	
	英語	中学	1(0)			英語	中学	2(1)			英語	中学	1(1)	
		高校	3(0)				高校	1(0)				高校	2(0)	
私立学校	国語	高校	0(2)	0(2)	私立学校	国語	高校	0(2)	0(2)	私立学校	英語	高校	1(1)	3(1)

2022～2024年度 進学先情報

2022年度
北海学園大学大学院文学研究科
琉球大学大学院地域共創研究科

2023年度
北海学園大学大学院文学研究科
北海道大学大学院

2024年度
北海学園大学大学院文学研究科
北海道大学大学院

留学状況

年度	学年	1部 日本文化				1部 英米文化				2部 日本文化				2部 英米文化				カナダ	韓国	中国	ロシア	欧州	豪州	NZ	フィジー	米国	イギリス	マレーシア	フィリピン	インドネシア	計(人)
		1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4														
2022		1		1	1	2	13	7	12					2	1			29	2			3	4			2					40
2023			2	2	1	4	8	7	10					2	4	4	1	26	5	3		3	6		1				1		45
2024		2	2		1		15	12	3					1	2	1		14	2	5		1	2			15					39

※次の留学を経験した学生を算出しています。

・英米文化特別演習・国際文化特別演習・日本語教育特別演習・協定校留学（ダブル・ディグリーを含む）・協定校ではないが、国際交流委員会経由の留学・休学期間中の留学・その他

資格取得状況

【修了者人数】（ ）内は高校のみの内数

	2022年度	2023年度	2024年度
日本語教員養成課程	28	25	22
図書館学課程（司書）	25	16	20
図書館学課程（司書教諭）	4	1	4
教職課程（中学・高校国語）	14 (10)	17 (13)	12 (2)
教職課程（中学・高校英語）	7	6 (3)	9 (1)
教職課程（高校地歴）	4	4	4
学芸員課程	14	13	7
社会教育主事課程	1	2	1

ヒューマン 2025.6 Vol.23

表紙キャッチコピー：
人間であるための訓練を、人間にしかできない学問で
人文学部1部日本文化学科4年 奈良琉平さん

このキャッチコピーは「なぜ人文学部で学ぶのか」という問いに対して、自分なりの意見を提示したものである。近年はAIが目覚ましい発展を遂げている。人間の営為を取り扱う人文学において、AIが人間を凌駕する時代は来ないだろうと考える。このキャッチコピーは、人文学が人間の行為である読むこと・書くこと・考えることを訓練することのできる学問であることや、AIに取って代わられることのない学問であるという期待を含めたものである。

写真撮影協力：I部写真部 大友葉純さん、下野慶太さん（仲松ゼミ、南ゼミ撮影）

文化を学ぶ 世界と繋がる



北海学園大学人文学部

日本文化学科(1部・2部)／英米文化学科(1部・2部)



〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号 TEL.011-841-1161(代表) FAX.011-824-7729

URL <https://human.hgu.jp/>

制作・印刷：(株)アイワード PD：馬場康広 [(株)アイワード 2000年人文学部日本文化学科卒]